

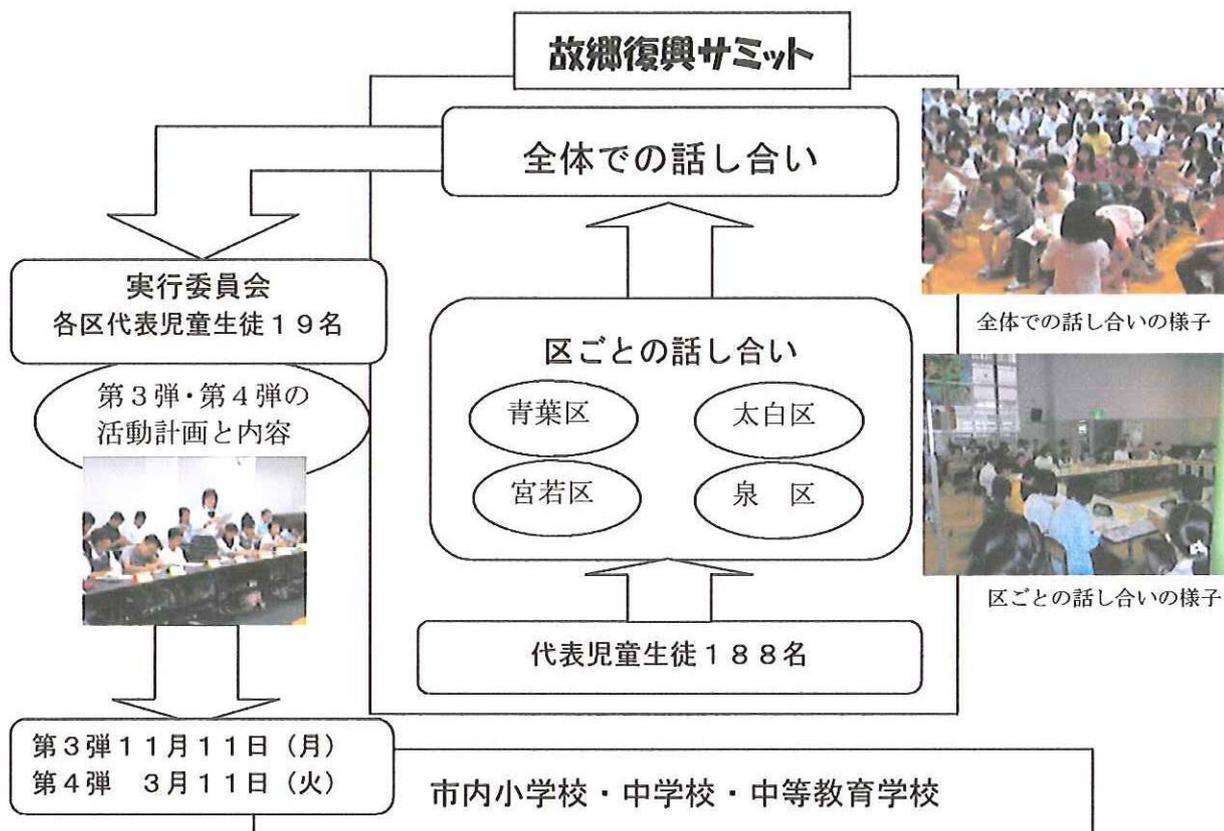
児童生徒による故郷復興プロジェクトだより

第1号

第2弾「故郷復興サミット」が開かれました。

○「故郷復興サミット」とは

仙台市の小中学校で取り組んでいる「児童生徒による故郷復興プロジェクト」の第2弾として、7月30日(火)東二番丁小学校で各小中学校・中等教育学校の代表1名が集まり復興へ向けて、小中学生がどんなことができるか、意見を出しあいました。各区からいろいろな意見が出されました。今後、各区代表児童生徒による実行委員会で話し合い、第3弾、第4弾の活動を決定し、各学校に活動計画をお知らせします。



○第3弾・第4弾に向けて各区からの意見

青葉区	<ul style="list-style-type: none"> 復興ソングを歌う あいさつ運動とごみ拾いを続ける 地域の人たちと清掃する 人文字を作り、動画をUPする
宮城野区 若林区	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動と清掃活動 明るく元気なキャラクターづくり 映像を作り、動画をUPする 復興ソングを歌う 人文字を作る 学校で震災や復興についてまとめて発表する 一人一人のメッセージを書いて希望の木を作る
太白区	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動とごみ拾いを大切にする 標語やメッセージを決めて人文字を作る 風船を空に飛ばす 黙とうし、合唱をする 花と記念樹を植える
泉区	<ul style="list-style-type: none"> スマイルフォト計画(みんなの笑顔の写真を集める) 復興ノート(思いや願いをノートに書く) 小中合同のあいさつ運動 復興に関する川柳や標語を作る 記念植樹

復興プロジェクト3年目を迎えるの思い(実行委員長のあいさつより抜粋)

児童生徒による故郷復興プロジェクト実行委員長 仙台市立桜丘中学校 内海 向陽さん

私たちは未曾有の被害をもたらした東日本大震災を経験しました。普通であること、当たり前であることにも、多くの人々の力を要し、感謝しなければいけないことを知りました。

あの日から2年4ヶ月、仙台市内の小中学校でも甚大な被害を受け、元に戻すことができない学校もあります。

今、私たちができることは何でしょう。しなければいけないことは何でしょう、まだ苦しんでいる方々の力になること、今私たちが毎日精一杯生きること。そして、あの震災を忘れないこと。



復興に向けての希望、震災後できた絆、そして震災を風化させないという強い意志のもと、たくさんの方々の力を借りて、今年、復興ソングができあがりました。この「希望の道」と「仲間とともに」の2曲の復興ソングが仙台の児童生徒に歌い継がれ、思いをつなぎ、新たな一歩を踏み出す力になることを信じています。

サミットでは、震災を風化させないために今、私たちができることは何か、熱い議論が交わされたいと思います。故郷復興プロジェクト3年目の今年、第3弾、第4弾に向けて、今後の仙台市の児童生徒に引き継がれていくような取組を提案していけるようにしたいと思います。

復興サミットに参加して感じたり、考えたこと

児童生徒による故郷復興プロジェクト実行委員 仙台市立田子小学校 佐藤 ちひろ さん

その日、わたしはすごくきんちょうしてました。実行委員として参加し、宮若区一班の話し合いをしっかりとまとめて、全体で発表しなければならなかったからです。実際に話し合いが始まると、自分もなかなか意見を出せませんでした。でも、周りの人は、自分の意見を進んで出していました。自分が情けなく思えたので、思い切って手を挙げて、意見を出したらすっかりしました。考えてみると、みんな各学校の代表というだけあっていつもとはレベルのちがう話し合いだったと思います。たくさん意見が出され、深まりのある話し合いになりました。

午後の全体会では、分科会で決まったことをたくさんの方の前で発表しました。始まる前はすごくきんちょうしましたが、あれだけたくさんの方の前で発表する機会はなかなか無いし、終わってみるときょうなことが経験できてとても良かったと思っています。

仙台市の学校の児童、生徒の中には、震災のことを本当に理解していない人もいるかもしれません。わたしは、これからの復興プロジェクトを進めるにあたって、仙台市の小・中学生みんなが震災のことを本当に理解し、心をつなげて、活動に取り組んでいけるようにしていきたいと思っています。

復興について考えたこと

児童生徒による故郷復興プロジェクト実行委員 仙台市立高砂中学校 松永 理佳 さん

今回のサミットで震災・復興についてたくさんの人と考えることができました。開会行事で初めて聞いた復興ソングは、ストレートな歌詞が心に響きました。「夜空見上げて 思い出す あの日の星のかがやきを」というフレーズを聞くと、避難所で見た、今までにないほど輝く星を思い出しました。

分科会では、震災を風化させないために何ができるのか、ということを話し合いました。想像以上にたくさん意見が出て、その意見からは、みんなの復興に対する強い思いが感じられました。

私は、地域の復興はまだ途中だと思っています。今こうして生きていられるのは、たくさんの方の努力のおかげです。それに感謝し、まだ戻っていない地域の復興につくることが大切なのだと思います。小中学生ができることは少ないですが、震災を後世に語り継ぐなど、自分たちにしかできない「復興」を続けていきたいです。



復興ソングが完成しました。

昨年度の「児童生徒による故郷復興サミット」で復興への思いや願いを共有して、みんなで一つになって取り組んでいきたいという気持ちから「自分たちで復興ソングを作りた」という意見が出されました。市内の児童生徒から歌詞を募集し、7月30日（火）完成発表会が行われました。

「希望の道」作詞者のことば

仙台市立台原中学校 越後 瑠璃さん

私は、あの日のことを忘れることはないでしょう。2011年3月11日、地震の直後から私は不安でパニックになりました。怖ろしくて仕方ありませんでした。避難先の小学校は人でいっぱいでした。避難先をあきらめ、帰った家の玄関は、ゆがんでいて、こじ開けたらもう閉まりませんでした。その夜は、寒さと恐怖の中、ラジオを聴きながら冷たい布団に入りました。

その後は、母の勤務先や児童館にお世話になりました。余震におびえていた私と弟ですが、まわりの大人の方々が本当にやさしく接してくださったおかげで、怖ろしさをやわらげることができました。母の勤務先や児童館の先生方、雪の舞う中、兄弟だけで並んだ買出しの時に、あたたかい声をかけてくれた地域の方、ガス復旧のために遠くからかけつけて回復してくれた方、自衛隊の方、今思い返してもたくさんの方々に、改めて「ありがとうございました」と伝えたいです。みんなが、私たち子どもを気づかせてくれたし、助けてもらったことを実感しています。そんな経験や思いを歌詞にしました。

あの日は、私たち一人一人が、日常と全く違う経験をし、何かを感じたはずですが、そのことを胸に刻み、未来へ向かって生きていくことが私たちの役目だと思います。自然の驚異はどうすることもできません。それでも、力を合わせて乗り切ることが大切だと教わりました。

今年、私は中学生になりました。何か手助けできることもあるかもしれません。その時は、私を支えてくださった方々のように、誰かを支えたいと思います。

この歌詞に素敵な曲をつけてくださった「みやぎびっきの会」の遊佐未森さん、かの香織さん、ありがとうございました。私たち一人一人の経験と思いを歌にのせて届けていきたいと思います。未来に向かって、希望の道を歩いていきたいです。



「仲間とともに」作詞者のことば

仙台市立南小泉中学校 藪内 海美さん

東日本大震災が起きた3月11日、当時私は小学6年生でした。新しい校舎建設のため、プレハブ校舎での授業の最中でした。天井から物が落ちたり、壁が倒れたり、とても恐ろしい一瞬でした。誰一人ケガもなく、家族のもとへ帰ることができましたが、あの恐怖は忘れられません。

それから2年が経とうとする頃、この復興ソングの話があり、「中学生の私には何ができるだろう」と改めて考える機会となりました。当時、たくさんの方が恐怖と不安と悲しみの中で、お互いを思い、助け合い、歩き始めました。勇気と元気をくれた方々への恩返しとし、命あることに感謝し、思いやりの気持ちを忘れず、復興を願う仲間とともに前へ進んでいきたいです。昨日よりは今日、今日よりは明日、一步一步復興は進んでいるのです。そんな願いで歌詞をつづった復興ソング「仲間とともに」が一人でも多くの人の心に響いてほしいと思います。

かの香織さん、遊佐未森さんには、このような素敵な曲をつくっていただき、本当に感謝しています。この詞が歌となり、生きたものとなってとても嬉しく思います。仙台市や宮城県が一つになって、復興へ向けて進む力になってくれればと思います。



「希望の道」を披露していただいた金剛沢小学校のみなさん



「仲間とともに」を披露していただいた第一中学校のみなさん



発表会には作曲したかのさん、遊佐さんも参加していただきました

★ 仙台七夕まつり

あしたにかがやく 星に願いを ～つなごう復興への思い～



多くのみなさんが見上げる七夕かざりー藤崎百貨店前ー

七夕オープニングセレモニー

児童生徒による故郷復興プロジェクト実行委員 仙台市立富沢中学校 高相 義忠 さん

八万羽の折鶴が、仙台七夕まつりで輝いた。仙台市の小中学生が復興への思いを込めた折鶴の七夕飾りがお披露目された。そんな華麗かつ壮大な飾りの中で、仙台七夕まつりオープニングセレモニーが行われた。

初めに、故郷復興プロジェクトの三年間の歩みが紹介された。一年目の応援旗、二年目のモザイクアートなど。代表として自分達が発表した、今までそれらを行ってきた先輩方の熱い思いや、元復興プロジェクト実行委員の皆さんの努力がしみじみと伝わってきた。紹介の後は復興ソングが披露された。金剛沢小が「希望の道」第一中が「仲間とともに」を発表し、歌い終えた両校には温かい拍手が送られた。

このセレモニーで仙台の児童生徒の復興に向けた活動を市民のみなさんに伝えることができ、仙台市の一員ということ改めて自覚できた。将来の復興を担う世代として、今後もこのプロジェクトの活動に精進していきたい。



吹き流しに書かれた復興ソングの歌詞



セレモニーに参加した児童生徒



プロジェクトの取組を紹介